

仙台に決定

本号の主な内容

1. 融合フォーラムの案内（開催迫る）
2. 会員の研究発表（野沢会員、遠藤会員）
3. 斎藤茂男会員逝去

著名なジャーナリストであり、「妻たちの思秋期」「父よ・母よ」等の著作で知られている『斎藤茂男』会員（会員NO.98）が亡くなりました。生前の功績を称えると共に、交友のあった方々の追悼記事が、多くの新聞・雑誌に掲載されました。できるだけ探して、コピーしましたのでご覧ください。

成功させよう

学校と地域の融合フォーラム '99in 仙台

——教育大改革、2002年をどう迎えるか——

「学校と地域の融合フォーラム'in仙台」の開催が迫ってきました。事務局調べでは、参加希望者が予想を上回りそうで、仙台の会員は全体会会場の変更も視野に入れて準備を進めているようです。実行委員会もすでに何度か開かれ、着々と準備が進んでいるようです。また、参加希望の問い合わせが相変わらず、引きも切らずに続いております。今回は、仙台在住会員の尽力にて、初めて習志野を離れ、杜の都「仙台で」、仙台市教育委員会と共催ということでの開催です。申し込みはまだ間に合います。東北三大祭りの「仙台たなばた」を見ながら21世紀への明るい夢を大いに語りあいましょう。

「仙台・融合フォーラム'99」(企画案)

1. 趣旨

21世紀を間近に控えた今、急速に変化しつつある社会に対応し得る新しい教育システムづくりが求められている。豊かな個性をもち、変化に柔軟に対応できる子どもを育てるには、地域や学校の特性に応じた個性ある教育の実現が必要である。教育改革の大きな柱の一つとして、家庭・学校・地域が一体となった教育の実現が強うたわれているが、学社融合の理念に基づいた取り組みが欠かせないものとなっている。このような時に、広く教育関係者や教育に関心の高い人々が一堂に会し、意見をたたかわす場を持つことは、非常に意義のあることと考える。そして、参加者一人一人がそれぞれの場で個性輝く教育活動を展開する契機になってくれることを願い、学社融合へのうねりを仙台から発信していく。

2. 主題

「来るべき21世紀へ向けての教育大改革」
総合的な学習は学社融合から——

3. 期日
平成11年8月7日(土)10:00~16:30
4. 場所
エル・パーク仙台 ギャラリーホール 等
5. 対象
学校教育関係者、社会教育関係者、教育研究者、教育に関心のある方
6. 主催
仙台市教育委員会
仙台市嘱託社会教育主事研究協議会
学校と地域の融合教育研究会
7. 後援
宮城県教育委員会・仙台市小学校長会・仙台市中学校長会・仙台市PTA協議会
NHK仙台放送局・河北新報社・東北放送・中央3紙・日本教育新聞社・放送各社 等

8. 内容

10:15~11:00 基調講演「千載一遇の時・学社融合の無限の可能性」

魅力ある総合的な学習の構築を考えてー

講師 文部省大臣官房政策課長 寺脇 研 氏

11:10~12:30 パネルディスカッション「教育大改革へ向けて」

2002年を迎えるにあたってー

コーディネーター 融合教育研究会副会長〔秋津コミュニティ会長〕 岸 裕司 氏

岸 裕司 氏

パネラー	教育行政の立場から	仙台市教育委員会教育長	小松 弥生 氏
	学社融合実践の経験から	鹿沼市教育委員会	越田 幸洋 氏
	学校の立場から	仙台市立将監小学校長	加川 ゆう子 氏
	企業の文化社会貢献の立場から	情報のあんこ(針生印刷)	針生英一 氏
	地域・親の立場から	仙台市PTA協議会顧問	山口哲男 氏

13:30~16:00 分科会

- (1) 学校教育に生かす地域の文化・人的資源
- (2) 学社融合に向けた行政側からの支援の在り方
- (3) 地域社会から学校教育へのアプローチ
- (4) 企業と学校、地域の新たなネットワーク

16:15~ ワークショップ・閉会行事

前日(6日)の18:00~ 近くのホテル(法華クラブ)で懇親会を行います。
(会費、5000円) 交流を深めたいと思いますので、できるだけ多くの参加をお待ちしております。

フォーラムの参加費は、無料です(資料代も不要)。

当日は、仙台市教育委員会との共催でおこなわれます。そのため、参加費は無料になります。

宿泊の斡旋

七夕まつりの関係で、ホテルの予約がしにくいですが、直接個人でご予約ください。

融合研フォーラムの参加申し込みの際、懇親会への参加の有無もお知らせください。

齋藤茂男さん（ジャーナリスト）逝く

著名なジャーナリストであり、融合研究会会員の齋藤茂男さんが、5月28日午後6時30分、胃ガンのために国立国際医療センターで死去しました。71歳でした。

徹底した取材を通して知り得た情報を、鋭くも人を大切にする温かな切り口でドキュメントや著作物として著わした生前の活躍は目覚しく、その死は各方面から惜しまれております。

齋藤茂男さんは、融合教育研究会に入会後は昨年8月に習志野市で行われた「第1回融合フォーラム」へ参加して下さったりしましたが、会員になる前から『これからの教育の進むべき道の大きな方向としての融合教育』に多大な関心を寄せてくださり、特にマスコミを通じて、紹介や推進に心血を注いでくださいました。秋津小学校と地域との融合の様子を齋藤茂男さんから紹介され取り上げられたものとしては、NHKの朝のテレビニュースや民間教育放送協会（民教協）の全国フォーラムなど多数あります。（別添資料、参照）

最近では、映画「男はつらいよ」や「学校」で有名な松竹映画の山田洋次監督にも融合教育の事例を話していたと言われ、山田監督もとても興味をひかれていた様子でした。〔別添資料、参照〕

融合研としては、会を側面的に支えてくださると共に、教育を共に考えあった同士として、齋藤茂男さんの功績を称える紹介記事を、本号でできる限り集め会員の皆様に紹介しようと考え、次ページ以降に特集しました。

特集の主な内容

1. 追悼 「齋藤さんの思い出を語る」 融合研副会長「岸裕司」
2. 齋藤さんとのファクスでのやりとり 宮崎会長・岸副会長
3. 紹介記事一覧
4. 紹介記事より
5. 「齋藤茂男さんの仕事とジャーナリズムを語る会」資料より
6. 齋藤茂男さんの絶筆原稿